白川文字学ニュース

発行 H29.11
福井県教育委員会
生涯学習・文化財課
No.8

大きくなったね！

七五三のお祝いをしましょう。

十一月には、各地で七五三のお祝いが行われますね。七五三は、七歳、五歳、三歳の子どもが無事に成長したことを祝うもので、神社などで「七五三詣」を行い、神様にすくすく育っているご報告、祈願を行います。

「七五三」は、もともとは、別々の行事だった！

○三歳「髪置きの儀」

江戸時代は、三歳までは髪を剃る習慣がありました。これからは、髪を伸ばすことができます。

○五歳「袴儀」

主に男の子が行います。この時初めて袴を着始めます。碁盤の上で吉方を向いて立ち、碁盤から飛び降りるという儀式が行われるところもあります。碁盤の目のように「筋目正しく育つ」などの願いが込められています。

○七歳「帯解きの儀」

女の子が行います。それまでの紐付きの着物に代わって、幅の広い大人と同じ帯を結び始めます。昔は「七つまでは神様の子」と言われましたが、七つからは、いよいよ自分の行いに責任をもって過ごしていくのです。

出典：『古事類苑』（吉川弘文館）

【佐】

7画　サ　たすける

甲骨

左は左手に呪具の工をもって祈り、神のいる所を尋ね、神の助けを求めることをいい、「たすける」の意味がある。のちに、人のために祈ることから、にんべんを加えて佐とした。左はもとは、神に関する事がらに用いる語であったが、人間に関する事がらには佐を用いる。佐は補佐（助けること）の意味で、官職名に多く使われた。

（白川静『常用字解』『字通』より）

【媛】

12画　エン　ひめ

篆文

大人になった女性をいう語であったと考えられる。「ひめ。うつくしい女の人」の意味に使う。八世紀の『古事記』に、伊予の国の別の名を「愛比売」といったとある。「愛比売」は神の名であった。

（白川静『常用字解』・小学館『日本国語大辞典』より）

『日本書紀』の中で、わたしのお母さんの「振媛」は、顔がきらきらして、大変美しい人だったと書かれているよ。

即位まで母の故郷（今の坂井地区）で過ごした「継体天皇」

次回は熊・鹿です。

「白川文字学ニュース」では、新学習指導要領で新しく学習する20字の漢字を紹介しています。

崎	茨
滋	媛
縄	岡
井	潟
沖	岐
栃	阜
奈	熊
梨	香
阪	佐
鹿	埼